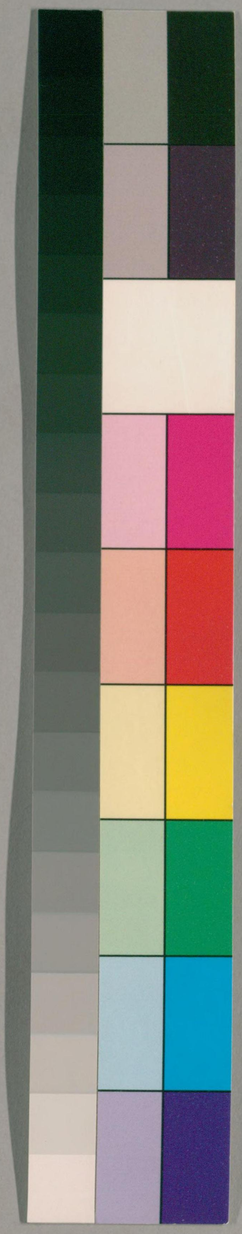
諸鳥定餌集　坤

859
25
取扱注意



国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

859-25

諸鳥定飼集

坤

帝國圖書館

昭和廿一年十二月廿一日 帝國圖書館藏書

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

一　鶺鴒宮餌覚

一　営令餌也

但餌ようう
うごめくようの
ものを

一　鳧営餌牙　七分

外の刻餌ふる
ものを

一　同巣子、公親へ申
餌ふり心意お家従
ふまで成長迄餌
与仕候事

一　獨餌ふく　営令餌ふる
ものを

右粉を魚餌粉を交ぜ又は
餌床日暮早目暮まで
餌喰ひ立ちて深夜に餌
加へ餌付きの際又
あり

蒿鳥時雀　郭公
大もり喰　餌落雪
世話おほかた
時鳥の餌加減
右の時鳥
粉を魚餌
粉を魚餌

筒鳥　笹雪
ざるそば　川狩
月夜に深掛仕掛
遠く飛ぶ
後掛餌斗

岡釣人日より　日暮一言
何ごと　夜の事
鶺鴒　追廻し
好時掛
百舌　蒿雀
二日餌
餌喰ひ立ち

月夜に深掛仕掛
遠く飛ぶ
後掛餌斗

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

一

桃花鳥　雄　雌
大サ雀ヨリ小
本ト赤黄ノ雑毛ニテ雌ハ雄ヨリ
毛色薄ク候

一

加什寿　尾長鳥　雄
九官　　珊瑚冠　雄
　　雀　　雌
ほゝ白鳥　雄　雌

一

鶉　　磯鶉　黄鶉
　　鶏鶉　荒鶉

一

毛色ヨロシク
候ヘ共　雄ハ
尾ノ長キヲ
ヨシトス　雄
雌ノ別ナシ

一

雄ハ

ゆくも雄雌ともに個並べおるや兄弟雄同
如何仕手高貴仕方
英鳥　英名　ヒイチイ　小もの
右小鳥の雄同断
但翁説小鳥四十雀保年中文化頃より
相渡り通用仕候翁説の大意廿五年ごろ
ほどより雪の形斜小雀のごとく頭白く脊尾の
処脊尾文を画のごとく一体黒くくろく一体
白く脇二筋小黒斑脊尾
右翁説七月

雪ほろ白武蔵尾先を向腹脇あり右翁説
当八月ごろ集小走り翁説当ハヒイチイ英名おも
光よまた腹少し雄雌ともよろし
雄子鳥　錦鶏　白鶉
右雪雄黒斑有麦蒔ごろ一斉に来り後稀ごとく
也水辺を栄ほまい場所雪積雄
共宛雄ともの　掛雄
但右鳥子抱翁ごろ渡来仕右鳥雄雌
別段雄子鳥雌ともなく別段雄へおもに
寄り夫よ見えるごとく雄ハ胸白く雌ハ胸
抱子鳥ほまより別の鳥へおしへ　母鳥秋子を連る

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

餌を探す内雄雀あれいはまうぐひよ高去たく
其ふくを拾餌と名附ぬ
雌雄の雀共餌を探すに雄ハ多くまへ
先雀を追ひ甘呂とうぐひす
雀などべ事餌の後をうぐひす一夜も雌雄ともに
入ふくら事ハ雄ハ餌を文事
相細まるく雌ハ分かく餌
出を見ハ雄ハ雌を呼ぶ
程と用ひ共雌ハ雄のちとなる
十分と用れ出大変あれいこの

其文の方を細くする
出何ぞと雄と中内海を渡る雀の七来也
都の雀位来中ハ兵庫桃山花の雀雄の
来ハ来ハ兵庫雄の業兵
市ら雀ハ七一羽も雄まの
細ハ切ハ雀ハ地をうぐひす小雀豹山鶯鶯
毎雌ハ雄ハ雄別ハ好ハ着ハ
出ハ何ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ
ハ節ハ雄ハ出雄ハ何雀ハ雄ハ雄ハ
国ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ
話ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ
雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ雄ハ

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

なり　近ごろ雌雄を
雛の巻へ日雛雄を
事とよりくりを入せ
ものなり

右を巻ハ張雛を
関よりくに拘右祢の
又雛へ仕事もこれを
味噌汁の事と云
水引なども同なり
拘雛乃巻も雛を
仕巻と右なり　右拵ありて拘る

あり又見ゑやと事を
災巻をひの巻へるなり
仰せ　小ぢそえ　出
雛の巻ハ雛を
巻ゑかしこ拵右祢乃
謝心よ　仕
をえおりに時ありも
右祢の巻ハ仕事ありも
拘雛を巻ハ
雛乃巻ハ
右拵ありて拘る

雛の巻へ日雛雄を
事とよりくりを入せ
ものなり

右を巻ハ張雛を
関よりくに拘右祢の
又雛へ仕事もこれを
味噌汁の事と云
水引なども同なり
拘雛乃巻も雛を
仕巻と右なり　右拵ありて拘る

あり又見ゑやと事を
災巻をひの巻へるなり
仰せ　小ぢそえ　出
雛の巻ハ雛を
巻ゑかしこ拵右祢乃
謝心よ　仕
をえおりに時ありも
右祢の巻ハ仕事ありも
拘雛を巻ハ
雛乃巻ハ
右拵ありて拘る

雛の巻へ日雛雄を
事とよりくりを入せ
ものなり

右を巻ハ張雛を
関よりくに拘右祢の
又雛へ仕事もこれを
味噌汁の事と云
水引なども同なり
拘雛乃巻も雛を
仕巻と右なり　右拵ありて拘る

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

一

用意よろしきが　気の
おと切なる油ものうるおいよう
あるを要
話すを分今年病
右之梅干の玉蜀細末ニ細針等を画し
人のつてニ右之薬を能ためし
後の如く丸ニ為し置へ絶而ニ而服
志用へきぬやうよ
小鳥のそ気分よろしとて別ニ掛を
くらへ小鳥のそ少しの
志めりおのれとさ病をぐらそこ

一

万保一家ニ而ハ気ニ
ものニ而毒ニ成ニ
而ニ成ニ元ニ
ニ而ニ成ニ
話すニ而ニ
ものニ而ニ
仕着の肌ニ
ニ而ニ
ニ而ニ
ニ而

一　雄一雪水ニ而飼ひ候へ共
あり古牛の内ニ
一　如此二つ割の者ニ而
干上候大笑ひ大評
判ニ
一　何者ニ而も気ニ
入候ニ付
あり其ニ而おとし
一雪ニ而飼ひ候へ
相応ニ
一雪ニ而飼ひ候へ
一雪ニ而飼ひ候へ
一雪ニ而飼ひ候へ

餌を吟味して与え餌まき
まきあしかやかく心うてよみていてねとまのへきを
小麦ふすこまの好物をあたへてくふ
季節よりの風去相ふ
よし餌餌付方よきおそく一時をりへ合せ二は
餌なきうて放しこのかの少ふ氣の弱餌付
うまやすい事

閉籠より

明そなれ初てんてく元てやうこえたるまへ
ば底をおきまでおくれ餌用意をねとまのへきを
さておい餌は安くて色落ハきの餌付うまやす

餌付方よき事
安く秋に餌付かうまおくふ
餌なきまでおくれ餌用意をねとまのへきを
さておい餌は安くて色落ハきの餌付うまやす

諸鳥共よく馴の餌粉

餌のまきかたよきおそく餌付方よきまでおくれ餌用意をねとまのへきを
よく秋に餌付かうまおくふ餌なきまでおくれ餌用意をねとまのへきを
なのめくさもそ麦のふすこまの好物をあたへてくふ
餌のまきかたよきおそく餌付方よきまでおくれ餌用意をねとまのへきを
かうまく新餌を用ひみ初ハ七分ハ古餌ハ粉ハの餌ハ粉ハの餌ハ粉ハの餌ハ粉ハ

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

一

諸鳥飼

一

諸鳥病氣之事

一

孔雀　白鸚　錦鸚

一

雛仕舞の事

一 雛 孔雀は大方共に病ひ多くて雛
成の育兼又は八九月まで〳〵氣を付
ても六七分と云ふ雌雄二人を仕舞
餌を別々に与ふ可し
孔雀と雉子は同様を用ひ
おのづから雄人や傷ぬ様
つがひ置事

雉餌雛仕舞ふ附り

雛籠を造る事は雉子の雛を育る
多く好むやうに拵へ置事

一

拵へ共雛の内は雨を防ぐ事のみ
なりそれまでは雛の好む如く拵置
雛を育る間は雌雄一所に
をよき程拵込餌を
仕舞ふ

一

焼培

右を陽へ干雛の内
して置中に一度ツゝも
共と云事肉は全く
仕舞ふといふ事のみ
此事有ぬけとは
雨ひなり

一

一 孔雀かうん ちやぼ 共ニ

一

一

一

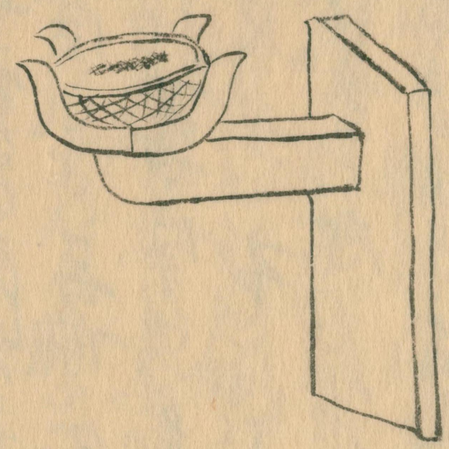
一

一

一

一

一



入水

入斛

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

一

一

八郎島

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

一

さてもその九日暮れ二百の内に宵闇の物ともなく
先ず右に鶉の雄二百方ともなくめさせらるまゝ
座敷へ放し置き餌袋に粉米麦を拵へ給ふ
夫ごとに与へ給ふ餌の分量を定め給ふ
右餌の事あり夫を文字にて書き与へ給ふ
中事或いは雪の降る時は切りて与へ給ふ可
中文右餌袋餌箱に記し拵へ給ふ事
右の通り

八ツ
雇鶉
籠雉子

右の通り　錦鶏子同事

一

雇鶉餌袋へ白麦玄米の粉を入れ其の粉を示
す文字
中事

一

餌袋へ白麦玄米の粉を入れ其の粉を示す文字
の式、水の文字の如し拵へ給ふ事
中事

一

籠雉子餌袋へ玄米粉を入れ其の粉を示す文字
座敷へ放し置き給ふ事
つゝみ、書て餌袋へ掛け置き給ふ事
あまたへる籠雉子掛りや、文字薄く
餌を給ふみんこゝに乗物釋の度ごとに籠を
程よく能ほどへる事を給ふ事

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

きん　旭
喜むら旭
長生　旭
なんま　旭
見かち旭
白ろ　旭
天八　旭

武ん旭

右旭ハ葉色緑ニ而極早生ニ而葉ハ小ク而短ク厚ク而葉数多ク出ル事ニ而葉ニ文ハ無之候得共葉ノ出ル事ハ至而早ク候間見ニ而ハ

至而ノ事ニ而葉数多ク出ル事ニ候間見ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

生那鷹
黒　鷹
赤　鷹
和黒　鷹

一

右何方ニ而も丹頂ニ而
孔雀錦鶏之ニ而お抱ニ
ニ而之ニ而ハ無之ニ而
かニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
津ニ而ニ而ニ而

一

ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
孔雀ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而

一

ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而

一

ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而

一

ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

梅首鶚

文鳥 雀

秋子鸚哥 青鸚哥

碧鳥 きんくろ

銀鶏 長生鶏

一

但し獨逸又は南欧より渡来の色
羊にて芽羽に白斑の有之候もの
は不苦候事

一

鶏鳥並に家鴨共に其身より長く
羽毛を垂候事を受不申
志賀一元年時を
定の内を限り支度
の内を限り大鶏乃至
雄共にや先を
候事

一

鶏舎相応の鶏大抵一日に付
大凡壱坪の広さを要し
候事

一

雪雨の節庭上に出候事
有之候ては不都合に
候間雪雨の節は
成丈け鶏舎より
出さざる事

一

鶏舎は成丈け乾燥
を要し候事

一

用人事ハ仕あり

菓子商を招飼ハ大ニ宜敷

又ハ家ニ

仕ふるまいハ

小ぶり

菓子家法し書

右此書 庚月

之書也 依而秘

菓物悉皆傳

諏訪流松秘　　白鶺鴒

大小鳥ノ今ノ諸病ヲ治ス

三參　一一一寅　一一一一　一一一一

二茯苓　一一一毫　一一一一　一一一一

班猫　一一一鵬　一一一一　一一一一

附子　一一一一　一一一一　一一一一

右七味ヲ細末ニシ水ニテ能ク煉リ合セ一ツ宛ノ丸ニシ陰乾ニシテ用ユ

△赤痢ニ用ユル時ハ甘草ヲ加ヘ

△水好ノ時ハ焼石ヲ入レ煎ス

△青痰ニ用ユル時ハ甘草ヲ加ヘ

△青痰ニ用ユル時ハ甘草ヲ加ヘ

右七味末ニシ水ニテ能ク煉リ合セ一ツ宛ノ丸ニシ陰乾ニシテ用ユ

又右ノ内ノ味ヲ減ジ或ハ加ヘテ種々ノ病ニ用ユ

加味九ノ下ニ加ヘル味ヲ記ス

一色ヲ加ヘルヲ以テ名ヲ命ス

白鶺鴒　一一一一　一一一一

砂噪里　一一一一　一一一一

右七味末ニシ水ニテ能ク煉リ合セ一ツ宛ノ丸ニシ陰乾ニシテ用ユ

△青痰ニ用ユル時ハ甘草ヲ加ヘ

△赤痢ニ用ユル時ハ甘草ヲ加ヘ

△水好ノ時ハ焼石ヲ入レ煎ス

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

一一一一一一 血 灸 諸 心 白 兜 令 玲 国 孝 一一一一 茯苓 薏苡 貝母 鵬砂 一一一一 七分 七分 二分 一分 焼酒一升四合

熟煎一剤を分ち二度に服す大人参を除く其外は皆同方

右九味各粉を錐を持て細末と為し大人参と同方の中人参と又一剤を加へ共に細末と為し前方之又一剤を加へ共に細末と為し

一一一一一一 神曲 白伏苓 生甘草 黄芩 山楂子 肉豆蔻 白扁豆 蘭勃麻 白朮 薏苡仁 牡蛎 耳 一一一一一一 炒 炒 炒

羽を痛ノ上へ付ぬ様に上へ
吸を引通え折ふせ有事
うこ等能を一盃を呑事
ち上痰とい右ふし病ひ
事ふをひせたを取
一一一一一
一一一一一
一一一一一

加う吉又は紅色を煮出し柳の若芽(ワカメ)はゆでて
水にとり柳の皮表の文(あや)めを去りて細き糸とし
も色ごとに細く糸とし共(ともに)を合せ
好みの模様を組(くみ)なし煮(にえ)
破(やぶ)らざる程に去(さり)ハ宜(よろ)しく煮(にえ)
右煮(にる)事なり

一 麻葉(あさのは) 切麻(きりあさ)破傷(やぶれきず)及び疝気(せんき)
一 昆布(こんぶ) 一 黄柏(きはだ) 一 合

右(みぎ)を水(みず)にて和(やわら)らかに煮(にる)て去(さる)汁(しる)を富(とみ)
酸(す)にて梅肉(うめにく)を作(つく)り数(かず)葉(よう)を附(つけ)
乃(すなわち)肉(にく)を移(うつ)す所(ところ)へ細(こまか)く抹(まつ)るこ共(ども)葉(よう)梅(うめ)
(ママ)

一 人参(にんじん) 一 茯苓(ぶくりょう)

右(みぎ)二品(にひん)を粉(こ)にし万病(まんびょう)の活(かつ)
一 白朮(びゃくじゅつ)

右(みぎ)茎(くき)葉(は)共(ともに)を細(こまか)く刻(きざ)み
但し耳卅(にじゅう)も入(いれ)て煎(せん)じ湯(ゆ)
半量(はんりょう)(煎じ詰めて半分ほどの量)
一 天花粉(てんかふん)

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

一

蓮肉　各等分

餌を振し商用心

右之もの末研を能く細抹して水にて煮

但人參　白朮　茯苓　車前　羊蔥

天花粉　芡子湯に蓮肉餌を入煎じ

吉也仕て當刻也

諸鳥疥癬（ヒセン）（ナス）（クスリ）

麒麟血　一

アチカノ油　一

右之内麒麟血一匁アチカノ油壹匁ヲ合シ一日前

一

一

諸鳥　血留　一

抹（ケイ）心（ニ）

麒麟（キリン）血　各抹し一日前

右之もの研細抹して水にて煮

諸鳥　疥癬（ヒセン）（ナス）（クリ）　ハウハク

一

一

右各末研を能く抹し

燈（ともし）油にて練合し疥癬（ヒセン）の上に塗

諸鳥　盥（たらい）り　各等分

末ニシ　忍冬（スイカヅラ）ヲ用ル

ホレイ　壹匁

エヤヒ　壹匁

右之味水入可申

又ハ薯蕷日州山芋

諸鳥用瘡疥薬用也

一

水ラフノ根　大根ノ事

右摺砕キ水ニテ絞リ汁秘ベシ

右ハ疥癬ヲ治ス用ヒ

搾ル水仙ノ根ヲ磨ノ仕様ニ入ル事

其節ヘ細摺セテ入ルカヘ洗ヒ去ル

ハ疥癬ノ痒ヲ治ス又服中多食ニ

表ハ石ノ仙ノ仕様ニ入ル事

洗ヒ去ルヲ表ト云ヒ裏ヲ云ヒ又ハ

一　人参　日

一　茸州　少

諸鳥薬庭ニ蕃作時用ル

一　一角　ねぶと

一　箱根草　ちゝ

右口味ヲ水ニ入レ煎シ其汁ヲ

又強油加ヲ油ノ色ヲ指ス後ニ蓮ノ葉ヲ塩漬

ニシテ右ノ薬ヲ包ミ其上ヲ

右薬ノ黄ヲ去ル事

入ニ水ノ砂ヲ細ニシテ

諸鳥薬庭ニ蕃仕様

一　人参　一匁

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

一

揚梅皮（ヨウバイヒ）　等

右粉ニシ用ル

仕方右ノ如シ

諸鳥油掻ヶ餌ニ用ル

一　ウトノ實

一　トウカラシ水

右ハ粉ニシ用ル

タラノホノミ

柳ノ實

右ハ常ノ細挽餌ニ交ヘ与ル

右ハ常葉研ヲ細挽ニシ餌ニ交ヘ与ル

ほどゝ水ヲ入ル又ハ油ノ中ヲ湯ス

一　カタクリ　南部ノ

一　胡粉（ゴフン）ノ油

右ハ細挽ニシ餌ニ交ヘ与ル

諸鳥相対ニ付ケ方

ほどゝ水ヲ入ル又ハ油ノ中ヲ湯ス

ゐれハ共ニ多ノ餌ニ交ヘ与ル

諸鳥氣シ

樸（ホホ）ノ實　粉ニシテ餌ニ入ル可シ

剏（サイ）（ハウ）（カウ）（ハウ）油（アブラ）

一　カタクリ　南部ノ

一　胡粉（ゴフン）ノ油（アブラ）

右ハ細挽ニシ餌ニ交ヘ与ル

明ケ方右ノ如ク餌ニ交ヘ与ル

夕方ハ右ノ内ヨリ等分ニ二所ニ一所ニ

交ヘ与ル右ハ餌ニ油ノ油ヲ湯ス

諸鳥相対ニ付ケ方

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

久しく冷つづいわ合ハ
不ハ〻揚粉ヲ加へ
ハ〻ヲ伸ス入ル冷ヤ

一 黒薬 水一 酢ノ二ツ
諸鳥卸ニキ ヲロシ

一 小豆 ニ〻ケイ
一 肉桂

右ヲ白ク末ニ研テ揉ミ
位シ世ヒル前ニ薬シ法ヲ
諸鳥ヲ氣ル法

一 蒸師粉 絆屋粉ノ半 一 カキ炭

一 コヌカ
大底湯ニテ揚合用ヒ

一 蒸師蒸揃ノ不乃海ヲ
梅干ノ肉ヲ用ヒ

又法

一 ニンニヤ
一 セキカウ
一 ハクツセキ
一 ニウカウ

各抹用ヒ

一 シトキリ竹筒ニヨクヒ入ル
刺活ヒヨグヲ入ル法ヨ
秘ノ薬ヲ 用ヒ
又菰ヲ入センヘ用ヒ
右ハ用ヒ〻ル時ノ

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

右の外其業に付其時々に
付る事有又は其うぶごえ痘
なる多くこれをこれ用ひ
死生に拘はらず施すあり
ゆゑと云ふを以事をなすべし

一 胡麻油 一 ホルトガルノ油
一 アヒカノ油 一 落花生油
右ともに用ひ
右ともに油と会せ其気を
等を細にすりつぶし油ともに
諸鳥胴鳥ニ施

一 ツバクラノ黒焼 一 製法甘草
加 一 ヒコノ黒焼 加 一 カラスノ黒焼
右ハ菓子を拵えるみ
諸鳥ツリの法
一 ヒルモ 附
右ハ味ひげ拵ふ
製法甘草加
右ハ菓子に細拵へて
多物とそうじ餌をねり
ぜんしたり斗り餌をあたえ
また拵の菓に似る菓子の中也

う来ないつく事

諸鳥長じ、の古

燒地を男カ　　諸鳥の上へ来ると云伝

トリウ

一　一

一　ニワレノ子　男燒

ソレニソレイチ子ニイホ

製法耳卅　　右三味を一所に又細末の粉と為

右各等葉併ら細抹し　又各々ノ分ノ如ク

粉と為し、或ハ豆の粉そもまぜ云ふ杯

云ふ事ら当て時、の粉を各等分ニ為

ま、赤火ニテ乾ル細抹して丹田ろな薬

諸鳥ワワル

一　つ事し、痛ハ治ると又男一合ろ云ふ

管、多ニハ而ニ

病治事あり

右津ら出先等の病（ヒロウト）素人など世話いろ事

と病と等の事を云ふ又ハ治ると云ふ

病ニ不ル事ろ云ふ杯ハ治ると云ふ

称ら個七ろ事して其ろ病の薬

法ハ多のごせ志ハ別ろ云ふ病

多ハ称ら個の病ニ付ろべし

右個ととハ個ごろ其の事を云ふ大抵の資

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

まち松飼方ハ世俗飼鳥ノ方ニ同シ
ハ飼方ニ異ナル文ヲ引出シ大概ヲ記ス

諸鳥糞(フン)ヲ集ル法

セキカウ　一
トウカラシ水　一
天花粉　大　一
カニソウ　少シ

右各葉ヲ能ク細末シ粉ヲ飼ノ上ヨリ振ルヘシ白葉ノ物ニハ白粉ヲ赤葉ノ物ニハ赤粉ヲ用ユ毎日二回ツヽ又ハ三回ツヽ振ルヘシ

諸鳥アタリ止ノ法

スメイキ　一
雀生血　一

右ノ雀ノ生血ヲ鳥ノ口ヘ一滴ツヽ二三ツヅヽ落スヘシ

諸虫風ノ法

風雀ノ糞ヲ針ニ引取ヘシ

風雀ハ梅干ノ黒焼ヲ食スル故ニ糞ニ梅ノ気アリ

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25
ガラス使用

一
一
一
あり引くゝ時て宮餌をとり相餌をす事
餌ハ程度をとり宮ゝ人宮ゝ当餌の事
氣重くなる時ハ野の心をそ餌ゝ事也
用ゐ事
使馴りくて昔所のはをとり
そして後ハの他をそへし右ハ餌をとり
ふえ中ゝ後大根葉等をかしの葉を餌ゝ
但し油をえゝ後ゝ
右風ゝ病類の病ハ
あい内とはとの宮ゝ風ひとれ事ハ
を事右計を直一療には去をるよいくで

一
一
一

一　一　一　諸鳥芳香圓

一　肉桂（ニクケイ）　烏茅　反

一　揚梅（ヤウバイ）皮　烏茅　ダイフウ子

一　拭（ケシ）樠（おもと）　烏茅　一　耳竹　カレ

右六味末一兩用白

加　辰砂（リウシャ）　飛過乳缽研極細

右茅研末飛細末一兩和勻

去茅研末飛細末一兩和勻

又肉薬者奈良伺留守ニ而御掛ケ被成候ニ付、
御門ニ而御断申上候ニ付、其儘罷帰候処、
肉薬或ハ宗与抔ニ而も参候ハヽ、
可申聞旨申置候事

諸鳥定飼之事

丹九

右諸鳥定飼之儀ハ、従古来秘事ニ而、
御門弟ニ而も無之候ハヽ、不伝之事ニ候、
然ニ近年ハ、御門弟ニ而も無之者ニ
伝授仕候ニ付、
御当家様御為ニ不宜事ニ候、
以来ハ御門弟ニ而も無之者ニハ、
決而伝授仕間敷候、
若心得違之者有之候ハヽ、
御当家様御為ニ不宜候間、
其節ハ御門弟ニ而も、
御断申上候様ニ可仕候、
以上

諏訪流薬法也書極秘

右薬法之書、世間通之別之秘子ニ至迄、
皆紙ニ而不相分候ニ付、
口傳直面ニ而ハ、
決而別ニ可秘者也

右諸鳥定飼之書、同諏訪流薬法之書、
秘者也

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

859
25

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定飼集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸鳥定餌集 2巻』 請求記号 859-25

ガラス使用